ボランティアのススメ

町内会長　　和気　加太志

今日の社会の風潮として、自分さえよければという利己的な考え方には根強いものがある。大人から子供に至るまで損得を中心とした打算的な心が強く、人のため公共のために働くことに対する理解は極めて乏しい。その歪みは随所に現れており、社会環境は悪化の一途をたどり住みにくい世の中を自ら招いている。

そうした世相の中で、近時ボランティアに対する認識が高まり、老若男女を問わずその必要性が次第に見直されてきていることは、実に喜ばしいことである。

本来ボランティア活動は、広く社会の人々のために少しでも役立ちたいという気持ちで、報酬を期待しないで自ら進んで行う活動である。この活動は、世の中の人々がお互いに手を取り合って共に生きて行くための自然な行為であり、だれもが人間として当然行うべきものである。特定の人だけが、好き勝手に行う特別な行動ではない。公園の除草や公会堂などの清掃も勿論ボランアであるが、誰にも言われないで道路に転がっている空き缶一つごみ一つ拾っても立派なボランティアと言える。

しかし、奉仕の心や態度は一朝一夕に養われるものでない。又机の上で覚えるものでないから、子供の頃から実際にボランティア活動をさせて根気強く体で覚えさせる必要がある。そのためには、子供会の活動などへ適切に位置づけたり、親が率先して模範を示すことを忘れてはならない。

田中野田では、相賀さんをはじめゲートボール同好会の人たちが自主的に公園の草取り、公衆便所の清掃等に取り組んでおられたり、子供会の親子が公園の清掃に汗を流している姿を見かける。親子、近隣の人達のふれあいのよい場ともなり、一石二鳥三鳥の効果を生むことになる。

これからボランティア活動の輪を少しでも広げて行き、田中野田町内をよりきれいな住みよいまちにしていきたいものである。

通学路を飾るボランティア花だん

わが郷土を語る（その２１）

中　尾　佐之吉

蓮昌寺と“みそきん”の話

1、蓮昌寺

岡山の蓮昌寺と言えば、西国第一のお寺として昔から有名である。日蓮宗のこのお寺は、かの大覚大僧正（注１）が布教のため岡山へ来られた当時、この地方を治めていた松田氏（宇喜多直家との説もある）の援助により、いまからおよそ６６０年ほど前の正慶年間（１３３２－１３３３）に創建されたと言われている。その敷地に建立されていた壮大な堂宇も戦災で丸焼けになり、現在は田町一町目へ鉄筋コンクリート造りの本堂が再建されているが、往時の姿はもはや見られない。

注１　大覚大僧正（１２９７－１３６３）は、日蓮宗京都妙顕寺の住職（妙顕寺を開基された日像上人の後継者）で備前・備中に始めて日蓮法華宗を布教された方。

2、泣く子もだまる“みそきん”さん

この蓮昌寺に“みそきん”と言う乞食が住んでいたそうで、私が幼児の頃（７０年以上前）、泣いたりやだをこねていると、よく親から「泣きょうるとみそきんが来るぞ」とおどかされたものである。しかし、実際は見たことはなかった。ただ一度だけ「みそきんがきょうるぞ」と言われ、家の裏口からおそるおそる覗いてみると、ボロボロの着物をつけた年寄りが杖をついてこつちへくるのが見えるのである。私は怖くて表へも出られなかった記憶がかすかに残っている。もちろん顔などは覚えてもいない。（注２）そして、いつとはなしに“みそきん”のことは、誰からも言われなくなってしまった。

注２　私と同年配の中仙道の小野田　弘さんも“みそきん”のことは聞いておられるそうだから、当時は、この近郷でもよく知られていた男と思う

3、郷土史家「岡長平」さんの本でみる“味噌金”の話

私がこの記事を書くのについて、有名な“みそきん”のことだ、誰か彼のことを書いているかも知れない。それなら、岡長平さん以外になかろうと、しらべてみると見つかった。「ぼっこう横丁」という本である。つぎの枠内の話が、岡長平さんの語る“みそきん”である。（一部省略）

……人権を捨てて、自恣に生きる流浪自然人に、味噌金と呼ばれるのが蓮昌寺の門のあたりに住んでいた。もの言わずの、阿呆のような様子をしてて、将棋がぼっこう強いので誰も舌を捲いとった。正業は柳川筋の花万（葬式屋）の花持ちで白い衣裳を着せられて行列に従ってぶらぶらついて行きょうた。……

味噌金が死んだので懐中をしらべたら、どえらい銭を持つとったので、霊柩車で賑かに火葬場へ送ってもろうた。“死んで、初めて自動車に乗ったのは、味噌金ぐらいのもんじゃろう……”と、世上の噂になったもんだ。残金は、なんぼうあったか忘れたが、蓮昌寺へ永代供養金として奉納した。住持の高見慈悦は、毎年、将棋仲間を集めて、善哉を供えて、将棋大会を催し、味噌金の冥福を祈ってた。

（備考、霊柩車は、岡山市では、大正６年の春頃から使われるようなったそうだ。……吉岡三平編「岡山事物起源」による）

4、もう一度、親に聞いてみたい“みそきん”さんのこと

「聞くと見るとは大違い」と言う言葉があるが、“みそきん”に対する私のこどものときのイメージと、事実とは大違いである。びっくりする。岡長平さんも、いくらか美化して書かれたかも知れないが、とにかく、悪いイメージばかりもっていた私は、“みそきん”さんにあやまらねばならないようだ。そして、こどものしつけには役に立っていたんですよと、親にかわって感謝しなければならないのかも……。

また、私が見たという乞食の“みそきん”さんは、夢であったのであろうか。

なお、どちらでもよいことかもしれないが、味噌金の名前の由来も知りたかったが、岡長平さんは、それにはふれていない。